

令和6年度 事務事業評価表（令和5年度実績）

事務事業名		医薬品衛生材料整備事業費				担当所属	地域医療課	
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～ 永年		
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別	国民健康保険鹿野診療所特別会計		
	推進施策	1 地域医療体制の充実			実施計画		総合戦略	
事業概要	対象	周南市民						
	意図	安心・安全な医療サービスを提供する。						
	成果	安心して健やかな生活を営むことができる。						
	手段	医薬品及び医薬材料等を適切に購入する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		診療を実施した患者の割合	目標値	%	100	100	100	100
			実績値	%	100	100	100	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		8,020	8,237	22,900	23,567	23,548	
	事業費		865	1,134	1,282	1,757	1,738	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	865	1,134	477	1,757	1,738	
		一般財源	0	0	805	0	0	
	人件費合計		7,155	7,103	21,618	21,810	21,810	
	正職員		7,155	7,103	21,618	21,810	21,810	
	正職員以外		0	0	0	0	0	
	(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
人員	正職員 (人)	1.00	1.00	3.00	3.00	3.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	昭和44年旧鹿野地域唯一の入院設備を持った診療所として開設。							
	現状の周辺環境							
環境変化等	医薬品衛生材料の購入払出し等は、医療薬品調達基金により管理運営したが、事務事業の見直しにより、平成24年3月31日で基金を廃止した。28年4月からは、非常勤医師1人体制となったため、医薬品を適正に管理し受診者に指導・説明することから院外処方とした。							
	今後の予想される周辺環境							
	地域住民の高齢化、人口減少の進展により過疎化が進み、受診者の減少及び受診困難者の増加が見込まれる。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	住民への安心安全な医療サービスを提供する目的のため妥当である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	・各医療機関と連携し、計画どおり事業実施ができた。・医薬品衛生材料整備の充実に貢献することができた。・実績把握と購入計画により、更に効率的な医薬品等の調達を心掛ける。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	・統合、代替できる事業はない。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	常に医薬品等の在庫に留意し、市民が必要とする安心安全な医療提供体制を維持する。						
改革案	今後の実施方向性	維持	受診者に適正な診療が提供できるよう、医薬剤料等の適切な調達・確保に努めていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
受診者への適正な診療が出来るよう準備された医薬材等で安心安全な医療サービスを提供できる。								

令和6年度 事務事業評価表（令和5年度実績）

事務事業名		医療用機械器具整備事業費				担当所属	地域医療課		
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～ 永年			
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別	国民健康保険鹿野診療所特別会計			
	推進施策	1 地域医療体制の充実			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	周南市民							
	意図	安心・安全な医療を継続して提供することができる。							
	成果	円滑で精度の高い医療サービスが提供できる。							
	手段	診療に必要な医療機械器具の修繕や賃借、または計画的に医療機器を購入。							
指標	活動指標	指標名			単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		診療を実施した患者の割合		目標値	%	100	100	100	100
				実績値	%	100	100	100	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和２年度 決算	令和３年度 決算	令和４年度 決算	令和５年度 決算	令和６年度 予算		
	トータルコスト		7,244	7,282	21,822	22,150	22,647		
	事業費		89	179	204	340	837		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	89	179	80	340	837		
	一般財源		0	0	124	0	0		
	人件費合計		7,155	7,103	21,618	21,810	21,810		
	正職員		7,155	7,103	21,618	21,810	21,810		
	正職員以外		0	0	0	0	0		
	(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	1.00	1.00	3.00	3.00	3.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和４４年旧鹿野地域唯一の入院設備を持った診療所として開設。								
	現状の周辺環境								
	平成元年、近隣の民間病院が開設。平成５年、無床及び外来診療所のみとなり、平成２７年度末には、常勤医師が退職し、平成２８年度から非常勤医師による週３日の開診体制となる。令和４年度は常勤医師の就任により、週５日の開診体制に変更。								
今後の予想される周辺環境									
機器等の計画的な更新整備の必要性。									
評価	評価項目			評価	評価の理由				
	妥当性	１．市の関与（税金支出）		A	山間部における医療提供体制を確保することは市の責務であり、安心安全な医療サービスを提供する目的のため事業を推進している。				
		２．事務事業の目的（対象・意図）		A					
		３．事務事業の目標（活動指標等）		A					
	有効性	４．計画の実施状況		A	計画どおり事業実施ができた。				
		５．目標（活動指標等）の達成度		A					
		６．上位施策への貢献度		A					
		７．事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	８．コスト削減へのさらなる取組み		A	・受託業者等と協議しながら、適正に事業を実施した。 ・統合、代替できる事業はない。				
		９．類似事業との統合・代替の検討		A					
		１０．これまでの実施手段		A					
総合評価	A	実施計画事業との調整を図りながら、医療機器の適正な維持・管理に努め、市民に常に適切な医療を提供できるよう整備していく必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	機器等の計画的な更新整備又は修繕及び賃貸借による受診者への適切かつ的確な医療サービスの提供。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
鹿野診療所において実施できる診療行為を維持することで、常に安心安全な医療サービスを提供できる。									

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		一般管理事務費			担当所属	地域医療課			
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療		事業期間	～ 永年				
	基本施策	5 地域医療の充実		会計種別	国民健康保険鹿野診療所特別会計				
	推進施策	1 地域医療体制の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	周南市民							
	意図	安心・安全な医療サービスを提供する。							
	成果	受診者が安心して健やかな生活を営むことができる。							
	手段	・一般管理事務費：診療所運営経費（診療所運営委託料、医師派遣負担金他） ・運営財源：診療収入、使用料・手数料収入、繰入金他）							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		開設日数		目標値	日	143	241	243	243
				実績値	日	191	242	240	-
				目標達成度	%	133.6	100.4	98.8	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		36,550	40,414	50,057	49,526	55,802		
	事業費		25,017	33,311	28,439	27,716	33,992		
	特定財源	国庫支出金	0	0	429	59	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	5,000	0	7,200	5,000	5,000		
		受益者負担	13	20	61	63	42		
		その他	5,865	6,386	11,277	13,063	11,399		
	一般財源		14,139	26,905	9,472	9,531	17,551		
	人件費合計		11,533	7,103	21,618	21,810	21,810		
	正職員		10,733	7,103	21,618	21,810	21,810		
	正職員以外		800	2,830	3,899	4,917	10,407		
	(事業費集計済分)		(0)	(2,830)	(3,899)	(4,917)	(10,407)		
人員	正職員 (人)	1.50	1.00	3.00	3.00	3.00			
	正職員以外 (人)	1.00	2.00	3.00	5.00	5.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和44年旧鹿野地域唯一の入院設備を持った診療所として開設。								
	現状の周辺環境								
	平成元年、近隣の民間病院が開設。平成5年、無床及び外来診療所のみとなり、平成27年度末には、常勤医師が退職し、平成28年度から非常勤医師による週3日の開診体制となる。 令和4年度は常勤医師の就任により、週5日の開診体制に変更。								
今後の予想される周辺環境									
地域住民の高齢化、人口減少の進展により過疎化が進み、受診者の減少及び受診困難者の増加が見込まれる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	住民への安心安全な医療サービスを提供する目的のため妥当である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	・計画どおり事業実施ができた。 ・更なる診療体制の補完のため、遠隔医療の導入を推進する。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	・周南北部地域には、本診療所の他5診療所があるが、当該地区は準へき地であり統合は困難。 ・ICTを活用し、遠隔医療の導入を推進する。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	常勤医師及び医師の派遣により現行運営体制の維持を図りつつ、ICT活用による遠隔医療の導入に取り組み、高齢化・過疎化に伴う受診困難者への医療の提供を継続していく。							
改革案	今後の実施方向性	維持	ICT活用（5G通信網を利用した他医療機関との診療連携を実施中）、オンライン診療（2024年7月16日にて定期実施を開始）を推進しつつ、周南北部の要の医療施設として本診療所の運営を継続していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
市北部の要の医療施設として継続していくため、巡回診療体制についても更に検討を進め、地域医療提供体制の維持を図っていく。また、ICT活用によるオンライン診療は、交通弱者等の受診困難者への医療提供の確保につながる。									

令和6年度 事務事業評価表（令和5年度実績）

事務事業名		休日夜間急病診療所運営事業費				担当所属	地域医療課		
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～			
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別				
	推進施策	2 救急医療体制の充実			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	休日及び夜間における応急診療を必要とする者							
	意図	休日（年末年始を含む。）及び夜間における急病に際し、安心して応急的な初期救急医療（一次救急医療）を受けることができる。							
	成果	休日（年末年始を含む。）及び夜間の初期救急医療体制を確保し、市民の安心安全に寄与することができた。							
	手段	休日や夜間において、応急的な初期救急医療（一次救急医療）を担う休日夜間急病診療所の管理及び運営を行う。							
指標	活動指標	指標名			単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		開設日数		目標値	日	365	365	366	365
				実績値	日	365	365	366	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和２年度 決算	令和３年度 決算	令和４年度 決算	令和５年度 決算	令和６年度 予算		
	トータルコスト		72,731	76,375	83,138	83,017	85,958		
	事業費		68,796	72,468	79,535	79,745	84,112		
	特定財源	国庫支出金	0	654	0	429	0		
		県支出金	0	1,973	1,735	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	43,009	40,867	45,412		
		その他	15,977	17,624	20	0	4,003		
		一般財源	52,819	52,217	34,771	38,449	34,697		
	人件費合計		3,935	3,907	3,603	3,272	1,846		
	正職員		3,935	3,907	3,603	3,272	1,454		
	正職員以外		0	0	535	450	671		
	(事業費集計済分)		(0)	(0)	(535)	(450)	(279)		
人員	正職員 (人)	0.55	0.55	0.50	0.45	0.20			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.30	0.30	0.55			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和５４年から旧２市１町（徳山・新南陽・鹿野）で構成される協議会により運営を開始し、平成２０年１２月に小児科を徳山中央病院（周南地域休日夜間こども急病センター）へ移設した。								
	現状の周辺環境								
	医師確保が困難な状況のなか、平成３０年４月より、平日夜間の外科診療を廃止した。								
評価	今後の予想される周辺環境								
	施設の老朽化、場所の分かり難さなどから、徳山中央病院の近く（瀬戸見町）に新築移転し令和３年１０月から利用を開始した。二次救急病院から近いことから連携がとりやすくなる。								
	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	１．市の関与（税金支出）		A	休日・夜間における応急診療を必要とする者が、安心して受診できるための事業であるため妥当である。				
２．事務事業の目的（対象・意図）		A							
３．事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	４．計画の実施状況		A	休日夜間急病診療所の運営により、休日及び夜間における初期救急医療体制を確保することができた。					
	５．目標（活動指標等）の達成度		A						
	６．上位施策への貢献度		A						
	７．事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
効率性	８．コスト削減へのさらなる取組み		B	医師確保が困難になるなか、今後の体制維持に向けた検討を行う必要がある。					
	９．類似事業との統合・代替の検討		A						
	１０．これまでの実施手段		B						
総合評価	A	休日・夜間の救急患者に備えた初期救急医療体制は、市民にとって必要なものであり、引き続き維持に努める。移転により、場所もわかりやすく、市民の利便性が格段に向上した。							
改革案	今後の実施方向性	維持	休日・夜間の救急患者に備えた初期救急医療体制を維持していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
休日・夜間における応急診療を必要とするものが、安心して受診できる。									

令和6年度 事務事業評価表（令和5年度実績）

事務事業名		救急医療対策事業費			担当所属	地域医療課		
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～		
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別			
	推進施策	2 救急医療体制の充実			実施計画		総合戦略	
事業概要	対象	救急診療を必要とする者						
	意図	休日における急病（歯科・産婦人科・熊毛地域の内科等）に際し、安心して応急的な初期救急医療（一次救急医療）を受けることができる。病院群輪番制病院を支援することにより、休日及び夜間における重症患者に対する医療（二次救急医療）を安心して受けることができる。						
	成果	休日及び夜間における二次救急医療体制を確保することで、重症患者への対応を円滑に行うことができた。						
	手段	休日歯科診療所の運営を委託により行う。産婦人科休日在宅当番医及び熊毛地域休日在宅当番医事業を委託により実施する。休日及び夜間における二次救急医療を行う病院群輪番制病院の運営費の一部を補助する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		延診療日数	目標値	日	565	567	567	567
			実績値	日	560	565	544	-
			目標達成度	%	99.1	99.6	95.9	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		55,410	53,898	56,258	54,559	53,197	
	事業費		52,190	50,702	51,214	51,287	50,989	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	16,405	16,374	16,711	16,681	16,679	
		一般財源	35,785	34,328	34,503	34,606	34,310	
	人件費合計		3,220	3,196	5,044	3,272	2,208	
	正職員		3,220	3,196	5,044	3,272	1,818	
	正職員以外		0	0	535	450	669	
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(535)	(450)	(279)		
人員	正職員 (人)	0.45	0.45	0.70	0.45	0.25		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.30	0.30	0.55		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	国の補助事業として実施していたが、廃止に伴い市の単独事業として継続実施している。							
	現状の周辺環境							
	周南医療圏における救急医療体制の確保のため、関係市が協力体制をつくっている。							
環境変化等	今後の予想される周辺環境							
	市民の安心安全の観点から引き続き救急医療体制を維持することが必要である							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	休日・夜間における救急を要する者が安心して受診できる救急医療体制を整備する必要がある。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	関係各市、救急病院等との連携体制のもと、計画どおり事業実施ができた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	現時点では、円滑な対応がされており、実施手段は最適である。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
		10. これまでの実施手段	A					
総合評価	A	市民の安心安全の観点から引き続き救急医療体制を維持することが必要であるが、受診者数の推移等状況の変化に応じて制度の検証を行う。						
改革案	今後の実施方向性	維持	市民の安心安全の観点から救急医療体制を整備する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
休日・夜間における救急を要する者が安心して受診できる。								

令和6年度 事務事業評価表（ 令和5年度実績 ）

事務事業名		検査解析業務等委託事業費				担当所属	地域医療課		
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～ 永年			
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別	国民健康保険鹿野診療所特別会計			
	推進施策	1 地域医療体制の充実			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	周南市民							
	意図	安心・安全な医療サービスを提供する。							
	成果	受診者に的確な医療サービスが提供できる。							
	手段	専門の検査解析業者への業務委託により、適正な結果のもと、受診者に対し適正な医療サービスが提供でき、医療の精度や質も向上を図ることができる。							
指標	活動指標	指標名			単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		検査実績		目標値	%	100	100	100	100
				実績値	%	100	100	100	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		7,454	7,438	22,243	22,438	22,530		
	事業費		299	335	625	628	720		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	299	335	227	628	720		
		一般財源	0	0	398	0	0		
	人件費合計		7,155	7,103	21,618	21,810	21,810		
	正職員		7,155	7,103	21,618	21,810	21,810		
	正職員以外		0	0	0	0	0		
	(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	1.00	1.00	3.00	3.00	3.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	外来受診者の検体検査や臨床検査・解析等を専門業者に委託している。								
	現状の周辺環境								
	変化無。								
評価	今後の予想される周辺環境								
	地域住民の高齢化、人口減少の進展により過疎化が進み、受診者の減少及び受診困難者の増加が見込まれる。								
	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	・住民への安心安全な医療サービスを提供する目的のため妥当である。・検査実績を表す指標であり妥当である。				
2. 事務事業の目的（対象・意図）		A							
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	4. 計画の実施状況		A	・各医療機関と連携し、計画どおり事業実施ができた。・検査解析業務等の充実に貢献することができた。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		A						
	6. 上位施策への貢献度		A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	現時点では円滑な対応ができており、実施手段は最適である。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	引き続き、専門の検査解析業者へ委託することで検査の精度・質の向上を図り、安心安全な医療サービスを提供していく。							
改革案	今後の実施方向性	維持	外来受診者の検体検査や臨床検査・解析等を専門業者に委託を継続していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
受診者の状態を正確に把握するための体制を確保・利用することで、安心・安全な医療サービスを提供することができる。									

令和6年度 事務事業評価表（令和5年度実績）

事務事業名		診療所管理運営事業費				担当所属	地域医療課		
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～			
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別				
	推進施策	1 地域医療体制の充実			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	地理的条件が悪く、高齢化が進む地域の住民							
	意図	地理的条件が悪く、高齢化が進む地域（中須・須金・大向・大道理・大津島・八代地域）において、効率的に医療サービスを提供することで住民の安心安全の確保に努める。							
	成果	中山間地域、離島において、地域の住民が安心して医療サービスを受けることができる。							
	手段	市が設置した中山間地域の診療所の管理及び運営を行う。							
指標	活動指標	指標名			単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		診療所数		目標値	箇所	7	7	7	8
				実績値	箇所	7	7	7	-
		目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-		
コスト	(単位：千円)		令和２年度 決算	令和３年度 決算	令和４年度 決算	令和５年度 決算	令和６年度 予算		
	トータルコスト		50,128	35,804	40,284	32,439	34,784		
	事業費		43,331	29,056	34,159	26,986	29,746		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	2	2	2		
		その他	2,457	1,377	1,159	1,002	1,852		
	一般財源		40,874	27,679	32,998	25,982	27,892		
	人件費合計		6,797	6,748	6,125	5,453	5,038		
	正職員		6,797	6,748	6,125	5,453	4,726		
	正職員以外		0	0	0	0	312		
	(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.95	0.95	0.85	0.75	0.65			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	住み慣れた地域で安心して健やかに生活できるよう、民間では運営の難しい離島や山間部における医療の確保が求められる。								
	現状の周辺環境								
	令和４年から鹿野診療所に常勤医師が就任したことにより、巡回診療を開始し、効率的な診療所運営を行っている。								
	今後の予想される周辺環境								
	医療体制を維持するため、県などと連携し広域的な医療体制の構築やＩＣＴを活用した遠隔医療の導入を検討していく。								
評価	妥当性		評価項目		評価	評価の理由			
			１．市の関与（税金支出）		A	高齢化の進む地域において、住民の安心安全のため、医療サービスを提供する目的のため妥当である。			
			２．事務事業の目的（対象・意図）		A				
	３．事務事業の目標（活動指標等）		B						
	有効性		４．計画の実施状況		B	地域の実情をみながら、見直しを行い診療所の管理及び運営を行うことができた。			
			５．目標（活動指標等）の達成度		A				
			６．上位施策への貢献度		B				
			７．事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性		８．コスト削減へのさらなる取組み		B	効率的な診療所の運営体制を検討する必要がある。			
			９．類似事業との統合・代替の検討		A				
１０．これまでの実施手段			B						
総合評価	B	中山間地域、離島における、医療提供体制の確保は市の責務であることから、地域の住民が安心して、安定的に医療サービスを受けることができる体制について検討を行う。また、施設分類別計画に基づいた施設管理を行う。							
改革案	今後の実施方向性	維持	鹿野診療所の常勤医師を中心に、それぞれの地域にあった診療体制を構築していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
市民が安心して継続的に受診できる診療体制が構築できる。									

令和6年度 事務事業評価表（令和5年度実績）

事務事業名		地域保健医療推進事業費				担当所属	地域医療課	
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～		
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別			
	推進施策	1 地域医療体制の充実			実施計画		総合戦略	
事業概要	対象	周南市民						
	意図	地域医療を確保するために、徳山医師会病院の経営の安定化を図る。						
	成果	徳山医師会病院の経営の安定化を図ることで、地域医療を確保することができる。						
	手段	徳山医師会病院の本館建替えに係る建設費の一部、及び（独）福祉医療機構から借受けた建設資金の利子相当額を補助する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		地域保健医療推進事業の経費	目標値		27553	26633	25690	24771
			実績値		27528	26628	25673	-
		目標達成度	%	99.9	100.0	99.9	-	
コスト	(単位：千円)		令和２年度 決算	令和３年度 決算	令和４年度 決算	令和５年度 決算	令和６年度 予算	
	トータルコスト		32,411	30,724	29,871	28,945	27,472	
	事業費		28,476	27,528	26,628	25,673	24,771	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		28,476	27,528	26,628	25,673	24,771	
	人件費合計		3,935	3,196	3,243	3,272	2,701	
	正職員		3,935	3,196	3,243	3,272	2,544	
	正職員以外		0	0	0	0	157	
	(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
人員	正職員 (人)	0.55	0.45	0.45	0.45	0.35		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	昭和41年建設の本館（５階建）が耐震基準を満たしていなかったが、耐震構造7階建に建替えられたことにより、震災時には、地域住民の避難場所として貢献できる病院となった。							
	現状の周辺環境							
	勤務医が不足する中、オープンシステム採用により入院施設を有しない開業医と、病院の常勤医との協働により入院患者の受入れ機能が増し、地域住民の福祉医療が向上している。							
環境変化等	今後の予想される周辺環境							
	地域住民が健やかで快適に暮らすためには医療の充実が重要であることから、医師会等との連携を深め、安心して医療サービスを受けることができる地域医療提供体制の充実を図る必要がある。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	１．市の関与（税金支出）	B	市の地域医療の確保する観点から妥当である。				
		２．事務事業の目的（対象・意図）	B					
		３．事務事業の目標（活動指標等）	B					
	有効性	４．計画の実施状況	A	補助金交付要綱に基づき、適正に実施することができた。				
		５．目標（活動指標等）の達成度	A					
		６．上位施策への貢献度	B					
		７．事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	８．コスト削減へのさらなる取組み	A	要綱に基づいて、補助を続ける必要がある。				
		９．類似事業との統合・代替の検討	A					
１０．これまでの実施手段		A						
総合評価	B	地域医療の要である徳山医師会及び徳山医師会病院の経営安定のため補助金を交付するが、必要な書類を提出してもらい、経営状況を把握したうえで補助を行う。						
改革案	今後の実施方向性	維持	要綱及び計画に従い、適正に事業を実施していく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
適正に事業を実施することで、地域医療体制の維持に努めることができる。								

令和6年度 事務事業評価表（ 令和5年度実績 ）

事務事業名		北部診療体制検討事業費				担当所属	地域医療課		
基本情報	分野	5 福祉・健康・医療			事業期間	～			
	基本施策	5 地域医療の充実			会計種別				
	推進施策	1 地域医療体制の充実			実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	地理的条件が悪く、高齢化が進む地域の住民							
	意図	地理的条件が悪く、高齢化が進む北部地域において、安心して医療サービスを受けることができる医療体制の再構築を図る。							
	成果	地理的条件が悪く、高齢化が進む北部地域において、安心して医療サービスを受けることができる。							
	手段	令和４年度に実施したアンケートの結果を活用し、市が設置した中山間地域の診療所の管理及び運営の再構築を検討する。							
指標	活動指標	指標名			単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		指標なし		目標値					
				実績値					-
				目標達成度	%	-	-	-	-
コスト	(単位：千円)		令和２年度 決算	令和３年度 決算	令和４年度 決算	令和５年度 決算	令和６年度 予算		
	トータルコスト		0	0	8,076	3,999	4,726		
	事業費		0	0	1,591	0	0		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		0	0	1,591	0	0		
	人件費合計		0	0	6,485	3,999	4,726		
	正職員		0	0	6,485	3,999	4,726		
	正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.90	0.55	0.65			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	地理的条件が悪く、高齢化が進む北部地域において、安心して医療サービスを受けることができる医療体制の再構築が求められる。								
	現状の周辺環境								
	人口減少、医師不足により、受診者数が減少しているが、診療日等の縮小を行いながら診療を継続している。								
今後の予想される周辺環境									
将来に向け、医療体制を維持するために、県などと連携し広域的な医療体制の構築や、ＩＣＴを活用した遠隔診療の導入を検討していく。									
評価	妥当性		評価項目		評価	評価の理由			
			１．市の関与（税金支出）		A	地理的条件が悪く、高齢化が進む北部地域において、安心して医療サービスを受けることができる医療体制の再構築を図る。			
			２．事務事業の目的（対象・意図）		A				
	３．事務事業の目標（活動指標等）		C						
	有効性	４．計画の実施状況		B	市が運営する診療所の管理及び運営の再構築を検討に取り組んだため、妥当である。				
		５．目標（活動指標等）の達成度		C					
		６．上位施策への貢献度		B					
		７．事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	８．コスト削減へのさらなる取組み		B	将来的に医療体制の構築を行うため、手段を検討する必要がある。				
		９．類似事業との統合・代替の検討		B					
		１０．これまでの実施手段		B					
総合評価	B	地理的条件が悪く高齢化が進む地域において、安心して医療サービスを受けることができる医療体制の再構築を図るため検討を行う。							
改革案	今後の実施方向性	手段変更	今後は、県などと連携し、広域的な医療体制の構築等を検討していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
地理的条件が悪く、高齢化が進む地域の住民が安心して医療サービスを受けることができる。									